

## 全体の構成

〈先生と私〉は、学生である私と先生の出会い。

〈両親と私〉は、私の重病の父親の看病。

〈先生と遺書〉は、先生の遺書。ここでの「私」は「先生」のこと。

## 教科書までのあらすじ

病気のために両親を失う。

遺産の管理を託していた叔父に裏切られ、  
極度の人間不信に陥る。

遺産を整理して上京する。

下宿の奥さんとお嬢さんの世話になる。

お嬢さんが好きになる。

寺の子に生まれ、医者之家に養子になる。

大学で医学を学ばず、哲学を学んだため  
に勘当される。

経済的に苦しい。

神経衰弱に陥る。

### 幼なじみで大学の同級生

下宿に同居させ、お嬢さんに面倒を見てく  
れるように頼む。

Kに嫉妬する。

健康が回復する。

お嬢さんと親しくなる。

Kに自分の気持ちも伝えようとするがで  
きない。

私にお嬢さんへの恋を告白する。

# Kの自殺

## 1. 私の反応

- ① 棒立ちに立ちすくむ。(Kから恋を告白を受けた時と同じ)
- ② しまったと思った。(取り返しのつかないことをした。)
- ③ 遺書を発見して読む。(私にとってつらい文句が書きつらねてあるだろうと予期した。)
- ④ 世間体の上で助かった。(予期したことが書いてなかった。)
- ⑤ みんなの目につくように元通りに置いた。
- ⑥ 振り返って襦の血潮を見た。

## 2. 遺書の内容

- ① 薄志弱行で行く先の望みがない。
- ② お嬢さんの名前だけはない。
- ③ もっと早く死ぬべきだった。

## 3. 不自然な状況

Kの部屋との仕切りの襦が開いている。

## 4. 問題点

- ① なぜ襦が開けてあったのか。
- ② 何に対する意志が弱かったのか。
- ③ なぜKはお嬢さんの名前を書かなかったのか。

死ぬべき時期とは何時だったか。また、なぜ死ねなかつたのか。

## 私の逆襲 (私とKで板書を色分けする。)

- 1 **K** 例の事件について口を切る。  
私にお嬢さんへの恋を打ち明けたこと。
- 2 **K** 実的な方面に進んでいない。  
お嬢さんに告白する。
- 3 **K** 私に向かって「どう思う」と言う。  
恋愛の淵に陥った彼をどんな目で私が眺めているか。  
現在の自分について私の批判を求めたい。
- 4 **私** Kの平生と異なる点を認めた。  
人の思わくをばばからなるほど弱くない。  
こつと信じたら一人で進んでいくだけの度胸も勇気もある。
- 5 **K** 「弱い人間であるのが恥ずかしい」と言う。  
迷っていて自分で自分がわからない。  
進んでいいのか、退いていいのか。  
お嬢さんに告白する お嬢さんを諦める。
- 6 **私** すぐ一歩先に出て「退こつと思えば退けるのか」と問う。
- 7 **K** 不意に行き詰まり、「苦しい」と言うだけ。
- 8 **K** 理想と現実の間を彷徨している。
- 9 **私** 「精神的に向上心のないものはばかだ」と言い放つ。  
道のためならずべてを犠牲にすべきだ。  
欲を離れた恋そのものも  
復讐以上に残酷な意味を持っていた。  
Kの前に横たわる恋の行く手をふさぐ。  
道を今までどおり積み重ねてゆかせる。  
  
Kが私の利害と衝突するのを恐れた。  
単なる利己心。
- 10 **K** 「僕はばかだ」と力に乏しい声で答える。
- 11 **K** 「もつその話はやめてくれ」と頼むように言う。  
お嬢さんの話。
- 12 **私** 「やめるだけの覚悟があるのか」と言う。  
お嬢さんとの恋
- 13 **K** 「覚悟ならないこともない」と独り言のように夢の中の言葉のように言う。

# 私の疑念

## 1. 「覚悟」その1

Kは古い自分を投げ出して新しい方角に走らない。

道のためにはすべて お嬢さんとの恋に進む  
を犠牲にする

投げ出すことのできないほどの尊い過去がある。

現代人の持たない強情と我慢があつた。

## 2. 襖事件

(a) 私の名を呼んで起こす。

(b) 間の襖を開けて、黒い影法師のようなKが立っている。

(c) 「もつ寝たのか」と普段より落ち着いた声で言った。

(d) 翌朝、調子の抜けた頃に「近ごろは熟睡できるのか」と聞いた。

(e) 「お嬢さんのこと話すつもりではない」と強い調子で言い切る。

(a) なぜ私の名を呼んだのか。

何か相談したかったのか。

起きるかどうか試すためか。

(b) なぜ襖を開けたのか。

Kが自殺した夜も襖が開いていた。

(c) 「もつ寝たのか」とはどついう気持ちか。

抗議

(c) なぜ普段より落ち着いたのか。

何かを決心している。

(d) なぜ調子の抜けた頃に「近ごろ熟睡できるのか」と言ったのか。

× 疑問 確認

(e) なぜ強い調子でお嬢さんの話ではないと否定したのか。

本当にお嬢さんの話でないから自尊心が許さずに強く否定したのか。

本当はお嬢さんのことだが、凶星にされたので強く否定したのか。

## 3. 「覚悟」その2

Kの果敢に富んだ性格 = 一般

この事件についてだけ優柔である = 例外

お嬢さんとの恋

この場合も例外ではない

果敢に富んだ性格が恋にも発揮される

クがお嬢さんに進む。

# 私とKとお嬢さん

## 1. 私とK

私

K

Kが女には鈍な人だと安心して下宿に連れてくる。

敏感になつてくる

Kに対する劣等感

神経衰弱がよくなる。

自信を取り戻す

学問や事業

×お嬢さん

容貌が女に好かれる。

こせこせしていない。

間が抜けていてしっかりしていて男らし

い

学力も優れている。

背が高い

## 3. Kとお嬢さん

お嬢さんがKの部屋に一人きりである。

用事があつたのか。

お嬢さんがKを好きだったのか。

## 4. 私とお嬢さん

私を見て笑う。

若い女の共通点か。

私に対するメッセージか。

## 5. Kの女性観

女には学問は要らない。

お嬢さん 軽蔑

## 6. 私の恋愛観

Kが現れる前

人の手に乗るのが嫌。

Kが現れた後

お嬢さんがKの方に気があるのではないかという疑念。

こつちでいくら思つていても、向こつちが他の人に愛の眼を注いでいるならば、そんな女と一緒にいるのは嫌である。

相思相愛

＝

高尚な愛の理論家

迂遠な愛の実践家

日本の習慣として許されていない。

日本の若い女性は自分の思いを遠慮せず口にする風気がない。

## 私の決断

### 1. 私の最後の決断

Kより先に、Kの知らない間に、事を運ぶ。

奥さんにお嬢さんを含めと談判する。

### 2. 私は仮病を使って奥さんに談判する。

### 3. 談判の様子

#### (1) 私の様子

Kが近ごろ何か言わなかったかと聞く。

お嬢さんへのプロポーズ

突然「お嬢さんを下さい」と言う。

#### (2) 奥さんの返事

① 驚いた様子を見せない。

② 即座に承知した。

③ 本人の意向さえ確かめるに及ばない。

本人が不承知のところへ、やるはずがない。

奥さんはお嬢さんが私を好きだと知っていた。

奥さんとお嬢さんの間で、私との結婚話ができていた。

奥さんは私が談判することを予期していた。

④ 何の条件も出さなかった。

私の財産

## 私の良心

### 1. 私のKに対する気持ち

すまないと思っていた。

論理的に弱点を持っていることに負い目を持っていた。

先にKから相談を受けていたのに、Kを出し抜いてお嬢さんを手に入れた。

### 2. お嬢さんとの婚約をKに知らせる方法

#### (1) 自分で話す方法

自分が直接Kから非難される。

#### (2) 奥さんに頼んで言ってもらう方法



①ありのままを告げてもらう方法は。

奥さんにKが先に告白していたことがばれる。

②こしらえごとを話してもらおう方法

奥さんに理由を詰問される。

すべて事情を話さなければならない。

自分の弱点を自分からさらけ出さなければならない。

結婚する前から恋人の信用を失つのは堪えきれなかった。

⇔

正直な道を歩くつもりで、つい足を滑らした

正直な道 = お嬢さんへの恋を選ぶ。

足を滑らす = Kを裏切った。

⇔

天と私の心

### 3. 婚約を知ったKの様子

最後の打撃を最も落ち着いた驚きをもって迎えた。

私とお嬢さんの婚約

⇔

策略で勝つても人間としては負けた。

# 私の自殺とKの自殺 (私と妻とKで色分けする)

## 1. Kの自殺の原因についての質問

早くお前が殺したと白状してしまえ。

お嬢さんの名前を出されたらたまらない。

### 新聞記事

勘当され厭世的な考えを起こした。

気が狂った。

## 2. 間もなく引越す。

Kの自殺した夜の繰り返すのが苦痛だったから。

## 3. 二カ月後、大学を卒業する。

## 4. 半年もたない内に結婚する。

**妻**幸福らしく見えた。

**私**幸福だった。

黒い影 = 最後に私を悲しい運命に連れていく導火線。

### 自殺

## 5. 妻とKの墓参をする。

**妻**二人の結婚を言んでもらう。

**私**腹の中で自分が悪かったと繰り返す。

## 6. 二人の結婚生活

① **私**気持ちを一転して新しい生涯にはいる端緒になるかもしれない。

② **妻**中間に立って、Kと私を結びつけて離さない。

③ **私**妻を遠ざけたがった。

④ **妻**気に入らないことがあるのかと詰問する。

隠していることがあると怨言を言う。

⑤ **私**ありのままを打ち明けよつとする。

自分以外のある力が不意に来て私を押しえつける。

妻の記憶に暗黒な一点を印するに忍びない。

=

**K**遺書にお嬢さんの名前を書かなかった。

⑥ **私**腕組みをして世の中を眺め出した。

**妻**今日に困らないからこころにたるみが出る。

**私**自分にも愛想を尽かした。

⑦私世の中で最も信愛しているたった一人の人間すら、自分を理解していないのかと思つと悲しかった。

=

□私のようにたった一人で寂しくて仕方なくなった結果、急に自殺した。

私にも理解されていないことを知り、寂しくなって自殺した。

覚悟の意味

お嬢さんを諦める。

婚約を聞いた落ち着いた驚き

私に理解されていないことを知る。

⇐

□Kと同じ道をたどっている。

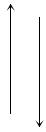
自殺

### 7. 私の内面の苦しい戦争

- ①外界の刺激におどりがあがる。
- ②恐ろしい力が動けないよつになる。  
お前は何をする資格もない男だ
- ③ぐたりとしおれてしまう。

⇐

一番楽な努力で遂行できるものは自殺より外にない。



=  
□薄志弱行

妻と一緒に死ぬ勇氣はない。

私がいなくなった後の妻を想像すると不憫になる。

### 8. 明治天皇の崩御

明治の精神が終わった。

### 9. 乃木大将の殉死

### 10. 私の自殺

明治の精神に殉死する。

妻に残酷な驚怖（血の色）を与えたくない。

=

□襖を開けて自殺した。

### 11. 明治の精神

古い明治の精神

新しい明治の精神

・ 武士道的 儒教的 精神

・ 厳格主義と完全主義

私 K に対する罪の意識

K すべての欲望を犠牲にする

果敢な性格

自己本位の精神

自由と独立

私 お嬢さんへの恋

K 実家や養家の意志に背き自分の道を進む

お嬢さんへの恋

私に恋を告白